

令和4年（2022年）12月（第12回）教育委員会会議

1 開催日時

令和4年12月21日（水）18：00～

2 開催場所

宇部市役所4F教育委員室

3 議 題

- ・議案第22号 令和5年度宇部市立小・中学校教職員人事異動方針について
- ・その他の事項

令和5年度からの宇部市立小中学校における働き方改革の取組

宇部市人権教育・啓発推進指針(改定版)の策定について

宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会等の開催状況について

寄附の報告について

令和5年度宇部市立小・中学校教職員人事異動方針

宇部市教育委員会

未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成のためには、地域とともにある学校づくりや特色ある学校づくりを推進し、社会総がかりで教育力の向上を図ることが必要である。

このため、各学校においては、山口県教育委員会が定めた「教職員人材育成基本方針」に基づき、教職員一人ひとりがそれぞれの資質能力の向上を図り、専門性を発揮しながら、「学び合い」のある授業づくりによる確かな学力の育成や体力の向上、生徒指導の充実、キャリア教育の推進などの諸課題に組織的かつ適切に対応できるよう、下記の点を踏まえ、厳正に人事の刷新を図り、全市的な視野に立って、適材を適所に配置する。

記

- 1 各学校の教職員については、専門性や現任校での勤務年数及び教職員構成等の観点から検討し、適切な配置を進める。
なお、同一校勤務が、7年を超える者については原則として異動を行う。
- 2 教員としての多様な経験を積むことや教員相互の研修を深めることができるよう、小・中連携を中心に異校種間の人事交流を推進するとともに、規模の異なる学校間での交流や他市との研修交流を積極的に行う。
また、同様の観点から、宇部市内3つの学校群において、全ての学校群での勤務を一度は経験することを原則とする。
- 3 新規採用者については、学校の育成環境等を踏まえ、実践的指導力を高めることができるよう、計画的な配置を行う。
- 4 校長、教頭等の管理職の配置に当たっては、学校課題の解決に向けて、適材適所の配置ができるよう、県教育委員会と十分に連携することとする。

学 校 群

宇部市教育委員会

小 学 校

東 南 部

東岐波小・西岐波小・恩田小・岬小・常盤小・川上小

旧 市 内

上宇部小・見初小・琴芝小・神原小・新川小

鵜ノ島小・藤山小・小羽山小

北 西 部

厚南小・原小・厚東小・二俣瀬小・小野小・西宇部小

黒石小・吉部小・万倉小・船木小

中 学 校

東 南 部

東岐波中・西岐波中・常盤中・川上中

旧 市 内

上宇部中・神原中・桃山中・藤山中

北 西 部

厚南中・黒石中・楠中・厚東川中

宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会審議経過

	開催月	内容
第 1 回	令和4年4月28日	・ 委嘱状の交付 ・ 諮問 ・ 小中学校適正規模・適正配置計画の策定について ・ 小中学校の現状について
第 2 回	令和4年5月30日	・ 追加資料について ・ 学校のあるべき姿と実現に向けた取組について ・ アンケート（案）について
第 3 回	令和4年7月29日	・ 学校のあるべき姿と実現に向けた適正規模等について ・ ワークショップ（案）について
第 4 回	令和4年10月28日	・ アンケートとワークショップ開催結果について ・ 学校のあるべき姿と実現に向けた取組について
第 5 回	令和4年11月21日	・ 追加資料について ・ 学校のあるべき姿の実現に向けた具体的な取組について
第 6 回	令和5年1月10日 （予定）	・ 中間答申（案）について

学校の規模や配置に関するアンケート調査について

実施期間	令和4年6月24日（金）～7月10日（日）
実施方法	WEBによるアンケート
対象者及び回答率	■一般（小中学生及び未就学児の保護者、学校運営協議会委員） 回答者数 2,761人(配付数13,117) 回答率 21.0% (同一世帯が2割から3割程度あることを勘案すると26%～30%) ■うべ未来モニター 回答者数 401件（登録者数868人） 回答率 46.2% ■児童生徒（小学5年生及び中学2年生） 回答者数 1,898件（配付数2,523） 回答率 75.2%
一般総括	■学級構成として小学校は2～3学級、中学校は4～5学級という意見が多く、その中で1学級は26～30人程度の少人数学級が望ましいという意見が多かった。 ■学校の規模を考えるうえで大切と思う点について、小学校、中学校ともに「きめ細やかな教育が受けられる」「多様な考えに触れる機会が多い」の順に重視されており、小学校では続いて「クラス替えができる」の割合が多いが、中学校では、「多様な学習形態の授業が受けられる」の割合が高く、小学校と中学校では重視すべき点に若干差異が見られた。 ■岬、見初、鵜ノ島小学校のある市街地地域においては、全体と比較して小学校は2～3学級を適切とする意見が約88.2%と多く、小学校の規模を考えるうえで大切と思う点についても「クラス替えができる」の割合が多く「通学距離・通学時間」「学校施設の充実・安全性」を重視しながら「通学区域を変更する」方法などにより、小規模校の解消を望まれる傾向が伺えた。 ■北部地域についても、小学校は2～3学級を適切とする意見が64.6%と多いが、小学校の規模を考えるうえで大切と思う点について全体と比較して「学校行事で一人ひとりが活躍できる」「異なる学年同士が交流する機会が多い」など小規模校のメリットを重視する意見も多く、また、小規模校の対策として「他校との交流や連携を深める」の割合が41.6%、「通学区域を変更する」「近隣の学校と統合する」併せて46.6%と小規模校の解消には意見が別れており、対応には慎重に取り組む必要がある。

学校の規模や配置に関するワークショップについて

	主な意見
中学生ワークショップ ■10月2日開催 ■34人参加	・交流を増やす（男女間、学年間、異学年、小中高） ・規模が変わっても、学校同士や地域で協力して、いろいろな人とのかかわりや意見を今まで以上に取り入れる。 ・ズーム等（ICT）を利用した他校との話し合いや授業の実施 ・小中一貫での学習を進める ・高校生に特別授業をしてもらう。オンラインで高校生から授業を受ける ・定期的に地域の方と交流 ・学校の統合
市民ワークショップ ■10月8日開催 ■70人参加	・ICT等を活用した活用学校間の交流の推進 ・地域との連携強化 ・学校統合・地域の再編 ・スクールバスの充実（公共交通） ・自由選択制の導入 ・専門家の活用（専門職・地域人）

寄 附 (11月分)

令和4年12月21日 報告

寄附年月日	寄 附 者	金 額 等	趣 旨 等
令和4年11月8日	匿 名	3,000 円	交通遺児のため として (平成24年度から通算127回目)